2019年9月27日発行

リスクフラッシュ 285 号(第10巻 第7号)



Risk Flash No.285(Vol.10 No.7)

発行:滋賀大学経済学部附属リスク研究センター 発行責任者:リスク研究センター長 得田雅章

TOPICS

- 1. セミナー報告(2019.7.25 開催・経営学セミナー):野田昭宏
- 2. 地域金融・地方創生講演会のご案内:菊池健太郎
- 3. 10 月開催イベントのご案内

セミナー報告:2019.7.25 開催・経営学セミナー

國部 克彦 氏(神戸大学経営学研究科)

本セミナーでは、國部克彦氏から企業の社会的責任 (CSR) をめぐる現状と内在する問題に依拠した新しい経営モデルの紹介があった。周知のように、日本においては「CSR元年」と呼ばれた 2003 年を境に CSR活動は急速に拡大し、爾来 20 年近くを経て、 その取組の経験が多くの企業間で蓄積されるに至っている。しかし、他方で、CSRの概念については明確なコンセンサスがなく、各企業によって異なった位置づけ



から実践されているという問題が指摘されている。氏の講演は、CSR の定義に焦点を当て、CSR における「責任(responsibility)」概念を現代哲学の論考(レヴィナスとデリダ)に依拠して明らかにしながら、責任概念にもとづく経営モデル「創発型責任経営」を提示することを目的としていた。

國部氏によれば、CSR における「責任(responsibility)」とは個々の組織構成 員が、他者からの欲求(呼びかけ)を知覚することを契機として生じ、その欲求に 応答することによって価値を生じるものをいう。この責任概念は、履行を通じて結 果的に新しい個人のネットワークを生み出し、ネットワークを通じて個人がさらに より多くの他者からの欲求を知覚することによって「責任」が拡大することを主張



する。したがって、責任は個人をめぐって無限に存在する他者からの呼びかけを根拠として存在するものとして無限責任の特徴をもつという。この視点は、企業組織を「契約の束」として理解するときの受託・委託関係における有限責任

(accountability) とは異なり、CSR における「責任」は受託責任の履行によって解除されるものと理解することはできないというのが氏の主張である。

氏は、この無限責任概念にもとづいて、組織構成員による主体的な活動を奨励し、創発的な実践を生み出す経営を「創発型責任経営」とよび、「新しいつながりの経営モデル」として提唱する。創発型責任経営にあっては、企業理念を共有する個々の構成員が社会的課題を知覚し、その解決のために働きかけるためのプラットフォームづくりが重視される。ケーススタディとしてオムロンほか4社の事例に言及しながら、創発型責任経営が、プラットフォームへの参加者による自主的な社会的課題の解決取組を全社的にサポートする体制を設定していることが報告された。創発的責任経営の視点は、CSR導入期を過ぎて、将来の展開を模索する企業においてCSR活動に取り組む実務者担当者へ多くの示唆を与えるものであった。

なお、本セミナーは氏の新刊『創発的責任経営一新しいつながりの経営モデルー』(日本経済新聞社)に基づいている。本セミナー直後に、東京と大阪で開催された出版記念シンポジウムは、両会場とも直ちに予約申し込みが埋まる盛況であったときく。CSR経営に関する最新研究を、他の会場に先立って彦根において接することができたのは貴重な機会であった。

文責 野田昭宏 教授(会計情報学科)





人口が減少する地域市場での金融機関経営の選択肢~

十八・親和銀行の経営統合を踏まえて

日時:令和2年1月23日(木)15:30~17:30

於:大津サテライトプラザ(JR 大津駅前)

講師:大庫 直樹 氏(ルートエフ株式会社・代表取締役)

主催:滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

定員60名(参加申込が必要です)

滋賀大学経済学部ファイナンス学科 准教授 菊池健太郎

平素より、滋賀大学経済学部附属リスク研究センターの活動に多大なるご支援を賜りまして誠にありがとうございます。この度、本センターでは、2020 年 1 月 23 日 (木)、大津サテライトプラザにおいて、地域金融・地方創生講演会を開催することに致しました。講師に大庫直樹氏(ルートエフ株式会社・代表取締役)をお迎えし、「人口が減少する地域市場での金融機関経営の選択肢~十八・親和銀行の経営統合を踏まえて」と題した講演を頂きます。

講演講師の大庫氏は、マッキンゼー&カンパニー社に入社後、1999 年に同社のパートナーに選出され、2008 年、独立しルートエフ株式会社を設立されました。この間、メガバンク、地域銀行、消費者金融会社といった様々な業態の金融機関の経営改革に携わってこられました。また、2017 年にはルートエフ・データム株式会社を設立され、データ解析に基づくコンサルティング業務の分野にも進出されております。本業のほか、2012 年~2016 年に大阪府市特別参与、2013 年から金融庁参与(現職)、2016 年から広島県特別参与(現職)として、有識者の立場から金融・地方自治体行政への提言を行うなどの活動もされておられます。金融機関経営に関する著書が多数あり、「新銀行論(ダイヤモンド社)」、「あしたのための「銀行学」入門(PHP ビジネス新書)」、「あしたのための銀行学2(ファーストプレス)」、「地域金融のあしたの探り方(きんざい)」などを上梓されております。

長らく続く超低金利環境を背景に、金融機関を取り巻く環境は厳しさを増しております。金融機関間の貸出競争が激化しているという現状も耳にします。長期的には 人口減少がもたらす金融機関への悪影響もしばしば指摘されるところです。この数年、

Cor Risk Person

地域金融機関同士の経営統合が活発化しているのも、活路を見出そうとする動きと考えられます。持続可能な新たな経営への転換を模索している金融機関も多いことでしょう。

地域金融が健全であってこその地域活性化です。また、地域経済が元気であってこそ、地域金融の健全性が維持されもします。今回の講演会では、金融の世界にとどまらない地域経済にとって重要なテーマを扱うことになります。したがいまして、地域金融・経済に豊富な知見を有する大庫氏のお話を伺えることは、多くの皆様にとって、地域金融や地域社会のあり方を考える貴重な機会になるのではないかと考えております。金融実務に携わっておられる皆様、地域社会の発展に興味を持つすべての皆様の奮ってのご参加をお待ち申し上げております。

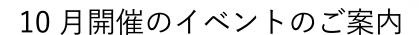
参加につきましては、事前申込制ですので、"本センターのホームページ内の応募フォーム、もしくはお電話(0749-27-1404)より"参加申込をお願いいたします。

詳細、お申込みはこちらからでも可能です。





ポスターはクリックすると拡大されます。





会 場:セミナー室1(士魂商才館3F)

分 野:リスク研究センター・データサイエンス教育研究センター共催セミナー

表 題:情報技術の進展とファイナンス

講師:高橋大志氏(慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授)

言語: 日本語

招聘担当:菊池健太郎 准教授

事前申込は不要です。直接会場へお越しください。



今年度開催イベントの一覧 はこちら 令和元年度 データサイエンス教育研究センター リスク研究センター共催セミナー

情報技術の進展と ファイナンス

事前申込不要

10/17(未) 5限(16:10-17:40)

会場:滋賀大学彦根キャンパス セミナー室 I (士魂商才館 3F)

対象者: 教員及び全学生(学部生・大学院生)

講演言語: 日本語

講師: 高橋 大志 氏

慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授

講師経歴はこちらから→



問合せ先:経済学部附属リスク研究センター(内線 395) 担当 山崎(risk@)

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター(以下、リスク研究センター)が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

- 1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
- 2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

- 1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
- 2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

- 1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律(平成15年5月30日法律第59号)に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
- 2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

- 1. 配信メールが回線上の問題(メールの遅延、消失)等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
- 2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
- 3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/12.html)

発行:滋賀大学経済学部 附属リスク研究センター

編集委員:得田雅章、近藤豊将、石井利江子、野田昭宏、菊池健太郎、松下京平、井澤龍、清水昌平

事務補佐員:山﨑真理

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局(Office Hours:月 - 金 10:00-17:00) 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Webpage: https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/

Facebook: https://www.facebook.com/shigariskcenter/

Twitter: https://twitter.com/shigarisk